

とらのもん



発行 全国醸造機器工業組合

〒104-0054 東京都中央区勝どき2-18-1-518

TEL 03(5548)5890 fax 03(5548)5895

e-mail zjkk@zjkk.or.jp http://www.zjkk.or.jp

VOL. 37

新体制決まる!

—第40回通常総会開催 平成19年度事業計画・収支予算を承認—

去る9月25日、東京の「虎ノ門パストラルホテル」において、通常総会と懇親会が開催された。藪田理事長の冒頭挨拶後、同理事長が議長となり議案審議に入り、18年度事業報告・同決算報告・19年度事業計画・同収支予算の各議案が異議なく承認された。

また任期満了に伴い役員改選が行われ、指名推薦役員が満場一致で決まった。

(19年度事業計画・役員は以下のとおり)

藪田(前)理事長冒頭挨拶(要旨)

今、国は租税特別措置法の期限を迎え、大変な状況。延長されないと中小の清酒メーカーなどの業界にとって痛手となる。中小企業を底支えしている諸施策はしっかり審議されることを期待。今総会では役員改選がおこなわれるので、ご協力をお願いします。

19年度事業計画/主要事業

1. 販売促進・支援事業

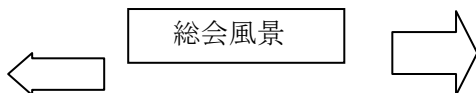
- 1) 昨年度発行した「総合カタログ」配布結果のフォロー：組合員各社により顧客からの情報を収集し、組合事務局にて集約、分析する。
- 2) 組合ホームページの充実：ユーザーに対する情報提供、当組合及び組合員の知名度向上を図る。
- 3) 「食の安全」への対応：食品・醸造業界に機器を提供する当組合の立場からの取り組み方策について検討する。

2. 情報の収集と提供

- 1) 各種展示会の情報収集と組合員各社への情報提供
- 2) 国の企業向け施策の紹介：経済産業省等が行う企業支援策や公募事業に関する情報の収集と提供
- 3) バイオ産業分野の情報収集：特に、バイオエタノールなど醸造技術や機器の応用が期待される分野についての情報の提供
- 4) ユーザー業界団体との交流の促進：従前よりの日本酒造組合に加えて、味噌・醤油等の業界団体とのチャンネルを強化

任期満了に伴う役員改選により、今後2年間の組合運営を担う新役員

- ◆理事長：藤原恵子(株)フジワラテクノアート) ◆副理事長：井上拓(第一工業(株))、喜多常夫(株)ルーツ機械研究所)、 ◆専務理事：伊藤 勝(員外)
- ◆理事：本村 幹(株)本村製作所)、藪田 巨康(藪田産業(株))、大辻節子(新洋技研工業(株))
- ◆監事：富山好夫(株)富山鉄工所)、荒木基弘(永田醸造機械(株))



藤原丸の船出を祝し・・・日本酒で乾杯！

通常総会閉会後の懇親会には来賓として（以下敬称略）鹿児島大学鮫島吉廣教授、経済産業省産業機械課太田成人係長、日本酒造組合中央会浅見敏彦副会長、同中央会蓮尾徹夫理事、関西醸造用品組合高木敏弘理事長、関東用品組合北村公克理事長ほか関係各業界紙の記者が出席、組合員企業の社長・社員も加わり盛大な懇親会となった。



藤原新理事長 挨拶（要旨）

醸造機器の仕事について7年だが、皆様の協力をいただきながら任務を果たしていきたい。

日本の食文化を支える仕事に誇りをもっている。微力ながらお客様によりいいものを作る責任がある。一層の努力を重ねてまいりたい。



藪田前理事長による
退任の挨拶



太田経済産業省産業機械課係長 挨拶（要旨）

各企業とも、本物志向・安全志向ニーズに基づいた高付加価値製品づくりにより国内市場の活性化に取り組んでいるが、それにプラスアルファとして海外、特にアジア地域の市場に目を向けた取り組みを期待。経済産業省としても各種支援をしていく。



浅見日本酒造組合中央会副会長 挨拶（要旨）

10年ぶりの「総合カタログ」発行を嬉しく、心強く思っている。新体制おめでとう。藪田前理事長のいままでのご努力に心から敬意を表します。

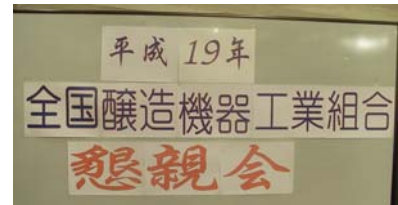
藤原新理事長には、是非業界の元気のため、ひいては我々酒造業界のためにご活躍を期待します。



三組合の枠を超えて、「三方よし」
の精神で業界に役立つ試みを！

日本酒で乾杯！

関西醸造用品組合高木理事長



乾杯三唱！
井上副理事長による
中締め…



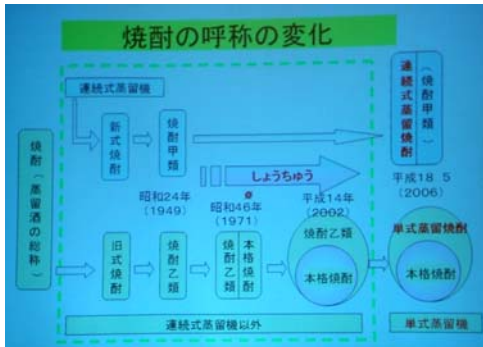
10月2日
「日本酒で乾杯推進会議」
による盛大な集いが東京
で開催されました。
当組合からも参加！



セミナー/焼酎物語・・・技術と酒質

通常総会終了後、薩摩酒造(株)役員を退任され鹿児島大学教授となられた鮫島吉廣氏をお招きし、セミナーを開催しました。

講演内容は、「本格焼酎の歴史」、「本格焼酎が関心と呼ぶ七不思議」、「明治以降の薩摩焼酎の歴史」、「本格焼酎製造法の特徴」、「焼酎づくりの変遷」など様々な焼酎の魅力に触れる内容で、造り手、消費者双方にとっても興味深い話に参加者は熱心に聞き入っていました。



(ご講演中の鹿児島大学鮫島教授)

「米国バイオエタノール工場・清酒事情」を視察！



リカーショップ清酒売り場



ミツワの清酒売り場



アドキンス工場



当組合と食品産業新聞社企画による「米国視察」が、8月20日から27日までの7日間の日程で行われ、ニューヨーク、シカゴの2都市を訪問しました。視察団は、藪田理事長を団長に、醸造機器・用品メーカーなど10人で構成。日本食ブームとともに需要が伸びている清酒は種類専門小売店、スーパーでの品揃えも豊富で、高価格ながら健康志向の消費者を中心に指示を得ているようです。また、エタノール工場は、シカゴから約250km離れた穀倉地帯の真ん中で組合組織で運営、大きな実績を上げている「アドキンスエナジー」を視察しました。

《清酒の動向》

- ◇ 清酒はまだまだシェアは小さいが健康ブームで伸びている。
- ◇ 清酒を買い求めるのは日本人が60%、アメリカ人その他40%、日本料理やそば、うどん店など業務筋も買いに・・・
- ◇ ニューヨークのリカーショップ視察

マンハッタン島で最も大きな専門店の一つで、ワイン4000アイテムをはじめ、年商は2000万ドル。清酒は約82アイテム、焼酎は120アイテムで、清酒はすべて約6℃の冷蔵庫で管理保管。

- ◇ ニュージャージー州にある食品スーパー「ミツワ」

日本人向けスーパーということもあって、清酒200アイテム、焼酎50アイテムの品揃え。

《バイオエタノール動向》

- ◇ 需要は今後さらに拡大
- ◇ バイオエタノール製造工場「アドキンス」を視察

同工場は、2002年に317の農家とパールシテイー組合及び地方の投資家による共同出資で総工費700万ドルをかけて建設。現在年間4250万ガロンの燃料用エタノール等を生産している。



藪田団長のレポートを同封しました。ご参照ください！

「2007発酵食品機械・醸造用品総合カタログ活用研修会」開催！



当組合40周年を機に10年ぶりに企画された総合カタログ制作の動きは、関西・関東の醸造用品組合に広がり、初の3組合での総合カタログ発行となりました。

更に本カタログを有効に活用するため関西醸造用品組合高木理事長の発案により「総合カタログ活用研修委員会」が発足、メンバーは3組合のカタログ編集委員がそのままスライドし、去る8月7日・8日、名古屋市の愛知県産業貿易館において「総合カタログ活用研修会」を開催、我が組合も積極的に参加しました。



短い募集期間にもかかわらず、3組合の組合員、酒造関係者を中心に約160名が参加しました。

この研修会には同カタログに掲載されている企業のうち20社（内、当組合関係企業16社）が約30分のプレゼンテーション（製品等の紹介）を実施、酒蔵などで実際に使われている状況など、プロジェクターを使い、動画を用いた説明も行われ、参加者からは「非常にわかりやすい」など好評でした。



また、懇親会には55名が参加。3組合間、ユーザーの方々との親睦も図られ充実した2日間となりました。

